

真生会富山病院を受診された患者の皆さま

当院は下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	当院におけるARCR術後結帯可動域、及び疼痛の経時的変化について
当院の研究責任者(所属)	高橋武広 (真生会富山病院リハビリテーション科)
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	真生会病院では多くの患者さんに関節鏡下腱板修復術後のリハビリを行っています。その中で問題となる事は結帯動作(腕を後ろに回す動作です)と結帯動作時の痛みでその改善には長い時間が必要となる場合があります。その為、結帯動作や結帯動作時の痛みの改善の過程を理解することはリハビリテーションを行う上で重要な情報となります。しかし私達が文献などを確認した中では結帯可動域や結帯動作時の疼痛の経時的な変化に対する報告は確認できませんでした。そこで当院で腱板断裂で手術された患者さんを対象に訓練開始6週、12週、訓練最終時の結帯可動域と結帯動作時の疼痛をカルテより確認し、結帯動作や結帯動作時の痛みの改善過程を確認したいと思っております。
調査データの該当期間	研究実施期間:承認日から令和3年12月5日。 調査データの該当期間:令和2年10月1日から令和3年7月31日。
研究の方法(対象となる方)	令和2年10月1日から令和3年1月31日までに当院で小断裂の診断にて関節鏡下腱板修復術をおこなった方を対象群とします。
研究の方法(使用する情報)	対象群の方に対し下記のデータをカルテから収集します。 ・患者背景:性別、年齢、身長、合併症、既往歴、現病歴、手術内容、認知状態。 ・結帯可動域:術後6週、12週目、訓練最終時の自動・他動結帯可動域 ・疼痛:上記の結帯可動域測定時の疼痛 収集したデータを元に各時期の可動域と疼痛を確認。結帯可動域と結帯動作時の疼痛の改善経過を確認します。
試料/情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	使用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源(利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
相談・問い合わせ・苦情	電話:0766-52-7779(内線2111) 担当者: 高橋武広 (理学療法士)
備考	